



関東屈指の山車祭り「八王子まつり」

どのような思いで
伝統文化やお祭りは
受け継がれている？

八王子には、個性豊かな獅子舞や八王子車人形などの伝統芸能が継承され、関東屈指の山車まつりといわれる八王子まつりをはじめとする、今も昔も人々の熱気が集結するお祭りが、各地域で行われています。こうした伝統文化は、伝承者や担い手なくしては成り立ちません。そこにはどのような思いがあるのか、読み解いてみましょう。

市内各地では、郷土の誇るお祭りや伝統芸能が継承され、各家庭では、今も大切にされている様々な年中行事があり、私たちは、歴史や文化を身近に感じながら暮らしています。

八王子に古くから伝わる9つの獅子舞は、五穀豊穡や雨乞いを願って神社に舞を奉納してきました。江戸時代中ごろには、宮大工たちが八王子独自の彫刻山車を造り、お祭りを彩る山車文化を築き、8月上旬に行われる八王子まつりでは各町内の山車が曳かれ、多くの人々で市街地がにぎわいます。幕末から明治にかけて、庶民の娯楽として車人形が八王子や周辺の村々に広まりました。これらの伝統文化は、町内・自治会や保存会、子ども会などによって継承されています。

永福稲荷神社のしょうが祭など祭礼の場で奉納される縁起を担ぐ食物は、厄除けや無病息災を願う人々によって脈々と受け継がれています。八王子のお祭りや伝統芸能は時代により様々に変化しながら、人々の思いと共に現在に伝えられています。



だんど焼き（上川町中部町会）



八王子車人形

八王子車人形

初代^{にしかわこりゅう}西川古柳(山岸柳吉)が考案した一人遣いの人形芝居「車人形」は、説経節を地語りとして、幕末から明治にかけて八王子をはじめ周辺の村々に広まりました。人形遣いが「ロクロ車」に腰かけて演じるのが特徴で、庶民の娯楽として親しまれてきました。八王子では現在、下恩方町の西川古柳座が車人形を伝承しています。西川古柳座では、臨機応変に対応できる人形の動きを活かし、バレエや落語など、様々な分野の芸能と共演するなど、新しい演目にも積極的に取り組んでいます。また、日本国内はもとより世界各地で精力的に公演活動に取り組んでいます。



▲次代の八王子車人形を担う「西川古柳座若手の会」の座員たち。人の情理を深く魅せる一人遣いの人形芝居を演じるため、日々鍛錬しています。

説経浄瑠璃

説経節(説経浄瑠璃)とは、もともと仏教の経典を説くものでしたが、次第に様々な音楽や人形などと結びついて民衆芸能化した語り芸です。江戸時代後期に初代薩摩若太夫により再興され、やがて多摩地方へ伝わり、写し絵や車人形の地語りにもなりました。昭和の初めごろまで、農山村の若者の娯楽として盛んに行われていました。



説経節を継承する「説経節の会」(東京都無形文化財保持団体指定)には、約50人の会員がいます。月2回の稽古のほか、古い台本を読む研究などをして、八王子をはじめとする多摩の地で愛され、楽しまれてきた説経節を継承しています。



八王子まつり

毎年、甲州街道沿いの市街地で、8月上旬の週末に、本市最大の夏祭り「八王子まつり」が開催されています。

昭和36年(1961年)に、新旧住民の融和を目的に、八王子市民祭が開催されました。昭和43年(1968年)に八王子まつりと改称し、市街地東部の八幡八雲神社の祭礼「下の祭り」と西部の多賀神社の祭礼「上の祭り」で曳かれていた町内の山車が参加するようになりました。現在では「関東屈指の山車まつり」で知られ、神輿渡御・山車巡行といった伝統文化を継承しながら、子どもからお年寄りまで世代を超えて、また地域の絆を深めて交流できる八王子の伝統を代表する行事となっています。また、神輿1基と山車12台、山車人形5体が市の有形文化財(工芸品)として指定されています。

山車巡行を構成する人々



かしらしゅう
◇◇ 頭衆 ◇◇

山車の巡行(梶取り)や各地区の神酒所の設営などを取り仕切ります。町内頭は篤職が務め、八王子消防記念会に属しています。



はやし
◇◇ 囃子 ◇◇

山車の上で、太鼓・とんび・鉦かねによる演奏に合わせ、様々な面を付けた舞を披露します。八王子まつりでは、目黒流、神田流、神田下町囃子、神田囃子山の手流、浜の手流、重松流の各流派が演奏しています。



やねがた
◇◇ 屋根方 ◇◇

3~5名の若衆が山車の屋根に上り、巡行時の安全確認や進行の合図を出す役目を担っています。



◇◇ 曳き子 ◇◇

山車を綱で曳く人います。「イーチ、ニーノ、ヤーイ」の掛け声とともに曳きます。町会の役員などは、浴衣に花笠を纏い、かつては「旦那衆」と呼ばれていました。



◇◇ てこまい 手古舞 ◇◇

手古舞は、てこてこという木遣が元といわれています。てこを唄うと、どんな大きな物でも動かせるとされてきました。八王子の手古舞は、明治後半から大正初めごろに始まったといわれています。



◇◇ きやり 木遣 ◇◇

木遣とは、元は人数で仕事をするときの掛け声が唄となったものです。八王子消防記念会が江戸時代後期より継承し、現在では、祭りの練歌として唄われ、山車の巡行開始時などに町内頭により唄われます。

獅子舞

八王子の村々で受け継がれてきた行事の一つに「獅子舞」があります。獅子舞はその地域の五穀豊穡、雨乞い、悪魔退散などを祈願して舞われます。八王子の獅子舞は一人立ちの三匹獅子舞で構成され、氏子や檀家内の地域をまわり、神事として寺社の境内で舞を奉納します。この獅子の行列には、軍配持ちなどを先頭に、花笠、唄方や笛方、幣負いなどが加わります。

四谷・狭間・小津・山入・今熊・田守・氷川・石川の地域では、地元の祭礼として舞われています。各地域では保存会を中心に、子どもたちにも継承されています。



三匹獅子舞（山入の籠獅子舞）



花笠（今熊神社の獅子舞）



軍配（狭間の獅子舞）



笛方と唄方（小津の獅子舞）

縁起を担ぐ食

「お祭りでは豊作を祈って〇〇を供える」「〇〇を食べると風邪をひかない」など、伝統行事や地域での言い伝えで受け継がれている食材や料理が身の回りにたくさんあります。八王子には、しょうが祭、だんご祭、まんじゅう祭で縁起を担ぐ食物が販売されています。これらは元来、人々が願いを込めて奉納していたものです。食物に託す人々の思いは、大切にしていきたい伝統文化です。

無病息災

厄除け



しょうが祭（永福稲荷神社例大祭）



まんじゅう祭（諏訪神社例大祭）



だんご祭（浅間神社例大祭）

年中行事



どんど焼き

毎年「小正月」に合わせて行われる「どんど焼き」では、正月の門松や書き初め、お札、祈願が達成された「だるま」などを持ち寄り、火をつけて焚き上げます。そしてその火で「マユダマ」（繭玉）と呼ばれるお団子を焼いて食べます。「無病息災に御利益がある」といわれています。



七夕（あさがお市）

短冊に願い事を書き笹などに飾る風習は、江戸時代に始まったといわれています。また、朝顔は織姫を指し、縁起の良いものとされていました。毎年7月、西放射線ユーロードでは「夏の風物市」と題し、八王子産あさがおをはじめ、夏の涼を感じさせる江戸風鈴や八王子の物産品などの販売が行われます。同時に縁日、人力車などの各種イベントも開催されます。



こいのぼり

住宅環境の変化などにより、こいのぼりを掲げる家庭は少なくなりましたが、子どもの健やかな成長を願う気持ちは昔も今も変わりません。

長房市民センター前の南浅川両岸には毎年5月5日までの数週間、約1,000匹ものこいのぼりが空を泳ぎます。近隣の幼稚園児・保育園児が作った可愛い手作りこいのぼりも泳ぎ、「八王子八十八景」にも選ばれています。

伝統食



酒まんじゅう



団子

江戸時代から物流の要所の宿場町として栄えた八王子には、多くの飲食店が軒を連ねていました。市内には、現在でも老舗の和菓子屋が多く、八王子和菓子組合は100年以上の歴史があります。特に酒まんじゅうと団子は古くから市民に愛されてきました。

主な構成文化財

国無民：国指定重要無形民俗文化財

日本遺産：日本遺産構成文化財

①八王子車人形



国無民 民俗芸能 日本遺産

文政8年(1825年)に現在の埼玉県飯能市に生まれた山岸柳吉(初代西川古柳)によって、江戸時代の終わりごろに考案されました。令和4年(2022年)に国の重要無形民俗文化財に指定されています。

②説経浄瑠璃



都無 芸能 日本遺産

説経浄瑠璃は説経節ともいい、元は仏の教えを説くための仏教の法談などから生まれたといわれています。人形芝居などと興行して江戸で人気を博すようになった後、八王子にも伝わり、現在まで受け継がれています。

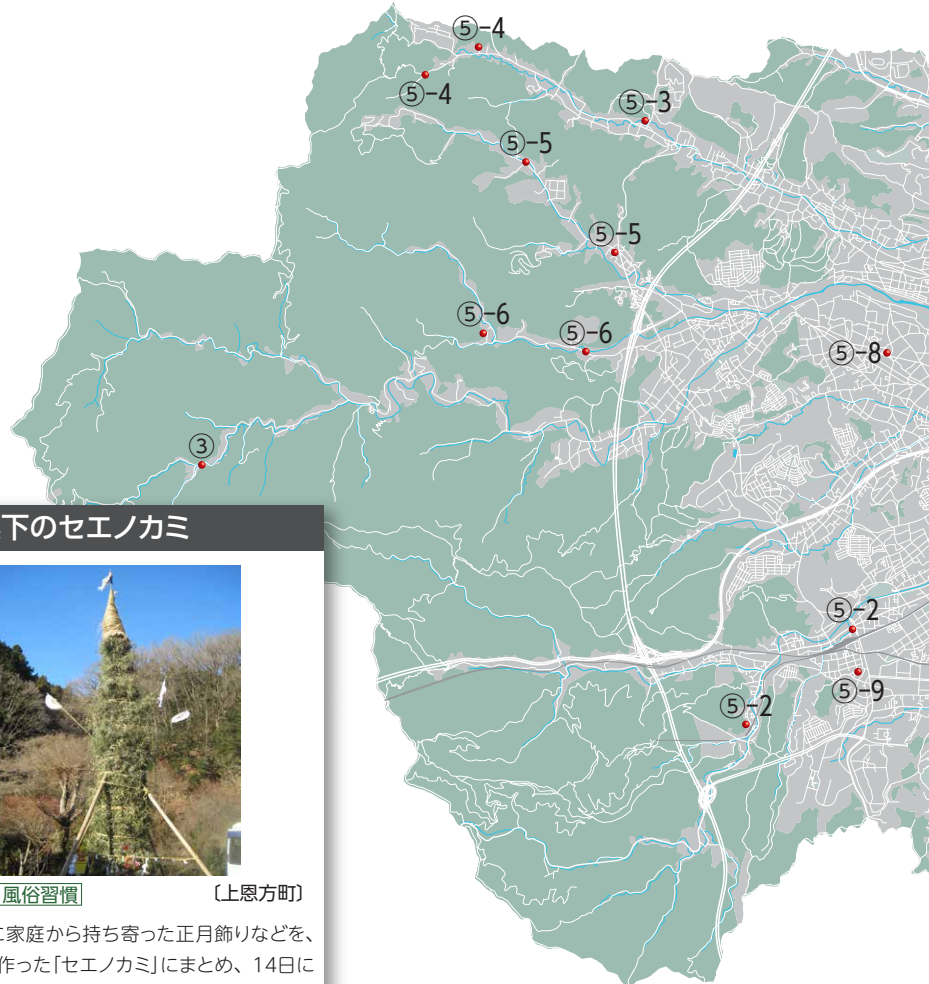
③上案下のセエノカミ



市無民 風俗習慣

(上恩方町)

正月7日に家庭から持ち寄った正月飾りなどを、竹や縄で作った「セエノカミ」にまとめ、14日に焚き上げる行事です。焚き上げる際には、人々が火を囲んで、養蚕の無事や無病息災などを祈願し、「マユダマ」と呼ばれるお団子を焼きます。



④宮神輿と山車・山車人形



1,3~16：市有 工芸品 日本遺産

1. 多賀神社神輿(三輪御所車含む)
2. 八幡八雲神社神輿
3. 三崎町の山車
4. 中町の山車 付 山車人形「諫鼓鳥」
5. 元横山町の山車
6. 南町の山車 付 山車人形岩座
7. 大横町の山車
8. 本町の山車
9. 八幡町(旧一丁目)の山車 付 山車人形「神武天皇」(岩座を含む)
10. 八幡町(旧二丁目)の山車 付 山車人形「諫鼓鳥」(岩座を含む)
11. 八幡上町の山車
12. 八木町の山車
13. 追分町の山車
14. 日吉町の山車
15. 横山町三丁目の山車人形「織田信長羅陵王」及び大獅子頭
16. 上八日町の山車人形「素戔鳴尊」
17. 元本郷町の山車
18. 小門町の山車
19. 千人町一丁目の山車
20. 平岡町の山車
21. 八日町一・二丁目の山車 付 山車人形「雄略天皇」
22. 横山町三丁目の山車
23. 上八日町の山車
24. 南町の山車人形「応神天皇」
25. 本町の山車人形「浦島太郎」

八王子まつりに参加する神輿や山車は、多賀神社の「上の祭り」と八幡八雲神社の「下の祭り」から継承された神輿・山車に、新たに建造された山車も加わり、今では「関東屈指の山車まつり」といわれています。神輿や山車、山車人形などの中には、文化財の指定を受けているものも多く、大火や戦災を乗り越えたものもあります。

都無：都指定無形文化財

市有：市指定有形文化財

市無民：市指定無形民俗文化財

※①②④⑥は位置が示せないため地図上にはありません

⑤八王子の獅子舞



1～9：市無民 郷土芸能 日本遺産

- 1. 石川町龍頭の舞
- 2. 氷川神社の獅子舞
- 3. 田守神社の獅子舞
- 4. 今熊神社の獅子舞
- 5. 山入の籠獅子舞
- 6. 小津の獅子舞
- 7. 梅坪の籠獅子舞
- 8. 四谷の龍頭舞
- 9. 狭間の獅子舞

八王子では、9つの獅子舞が市指定の文化財として継承されています。獅子舞は、武士の間では武運長久、農民の間では五穀豊穡や厄除けとして舞い、受け継がれてきました。現在、地域での祭礼や八王子まつりなどで舞われています。

⑥木遣



市無民 郷土芸能 日本遺産

八王子の木遣は江戸木遣りの流れを汲み、元治元年(1864年)、本郷政という木遣師が当時の消防組員に伝承したのが始まりといわれています。当時、木遣唄は65種類あり、台本も残されていますが、そのうち17種類が市の指定を受けています。

⑦福の神



(高月町)

江戸時代に始まった行事で、毎年1月7日に、小学1年生から小学6年生までの、町内に住む子どもたちが、背中に正月のお飾りを背負い、福俵を持って全ての家々を訪れ、福俵を家の中へ投げ込んだり引き寄せたりしながら、家に福の神が入り貧乏神を追い出す唄を唄うという高月町滝地区の伝統的な行事です。

⑧多賀神社



(元本郷町四丁目)

一説には鎌倉時代に起源を持つともいわれ、八王子の西の鎮守社として広く崇敬を集めた神社です。境内には、織物に由来する機守神社もあります。江戸時代には、多賀神社で行われた祭礼を「上の祭り」と称して執り行っていました。現在行われている八王子まつりでは、多賀神社の千貫神輿が上地区の見所の一つになっています。

⑨八幡八雲神社



(元横山町二丁目)

八幡神社と八雲神社を合祀した神社で、延長2年(924年)に石清水八幡宮を祀ったことが起源とされています。江戸時代には、八幡八雲神社の祭礼を「下の祭り」として執り行い、多賀神社の「上の祭り」とあわせ、桑都市中の二大祭りとして知られていました。八王子まつりでは宮神輿渡御が下地区の見所の一つになっています。

文化財の保存・活用事例

伝統文化ふれあい事業

八王子の豊かな伝統文化、芸能を気軽にみて、きいて、ふれることで、あらためて八王子の良さを知り、その魅力を発見できる講座を伝統文化ふれあい事業実行委員会が開催しています。

八王子車人形の体験・発表講座、説経節体験・発表講座、篠笛の体験・発表講座などを行っています。



木遣の継承

市指定無形民俗文化財(郷土芸能)の木遣は、江戸木遣りの流れを汲み、元治元年(1864年)に本郷政という木遣師が、八王子の町火消しである消防組員に伝授したといわれています。八王子消防記念会は天明年間(1781～ 89年)から続くといわれる八王子の消防組の伝統を継承し、出初式(1月)や高尾山薬王院の春季大祭(4月)、八王子まつり(8月)などで、木遣唄やはしご乗りを披露しています。



祭囃子の継承

祭囃子は、八王子まつりや市内の神社等で行われる祭礼には欠くことのできない音色です。平成6年(1994年)に「八王子祭囃子連合会」が発足し、現在では八王子市と周辺の20を超える祭囃子の団体が所属しています。同会は相互のお囃子研鑽と、子どもたちにお囃子を通して故郷を愛する心を育んでもらい、健全な育成を願い活動し、八王子の祭囃子を継承しています。

